

「岩手大学・東京農工大学共同獣医学課程」

設置構想(案)の概要

1. 設置の趣旨および必要性

(1) 我が国における獣医学教育を取り巻く状況

近年の食の安全確保、人獣共通感染症への対応、獣医療ニーズの多様化・高度化、防疫需要等の増大に対応しうる国際的通用性を備えた人材ニーズの高まり等、我が国の獣医学教育を取り巻く環境が変化してきており、これらに対応した獣医学教育の改革が求められている。

欧州連合においては獣医学教育についての共通基準と評価のシステムが構築され、国際獣疫事務局においても獣医学教育の国際基準について検討がなされてきているが、我が国における獣医学教育の国際的通用性は低いとの厳しい指摘がある。

グローバル化する知的基盤社会の中で、国際的通用性を備えた質の高い教育を行うことが課題となっているが、特に、教育の質の保証の観点から、医学、歯学、薬学等、他の医療系専門職の養成機関においては、全ての学生が履修すべき必要不可欠な教育内容を整理したモデル・コア・カリキュラムが作成されており、獣医学教育の分野でもこれらを参考にした取組が既に検討されてきている。

さらに、獣医学教育における臨床実習については、即戦力となる獣医師養成を可能とするために、従来の見学型から参加型実習が必須となるべき大きな転換期をむかえている。獣医学教育での講義科目や実効性のある実習や学生教育の質の向上を図ることは、内外の情勢から判断して必然となってきている。

高度な職業人としての獣医師育成を図るためにも、獣医学教育全般について高度化を図り、実践することは喫緊の課題である。

(2) 獣医学教育の現状分析と共同獣医学課程設置による改善への方向性

我が国の獣医教育の現状分析では、獣医師の職域や社会的役割、関連法規、獣医倫理等を扱う導入教育の不整備が挙げられる。即ち、獣医師の職域や社会的役割、関連法規、獣医倫理等を扱う導入教育内容が不十分であるとともに、多くの大学で導入教育を担当し教育内容を統括する教員がいない。そのため、学生への動機付けや当該大学での獣医学教育に対する理念を伝える機会が十分確保されていないのが現状である。

また、実践的な教育内容の不足が挙げられる。講義科目については、基礎分野については比較的充実しているが、応用分野や臨床分野は教育内容が不十分な科目が散見される。また基礎・応用・臨床の全分野を通して、講義科目に比べて実習科目の教育内容が不十分であり、理論を実践に結びつけるような科目の教育が十分でない。実践的な教育内容の充実の観点からは、応用・臨床分野の講義科目の充実や実習科目で取り扱う内容の充実とともに、家畜病院・食肉衛生検査所・農業共済等の関連施設におけるインターンシップや施設見学の充実が重要である。しかし、実習段階における獣医療行為の制限や、公衆衛生関連施設における実習の機会が十分確保されていない等の課題が残っている。

さらに、新たな分野への対応についていえば、基礎分野をはじめとした学問的に歴史のある分野に比べ、近年の学問の進展や社会ニーズの高まりから新たに必要性の高まった分野は、専門性のある教員の不足や共通的なテキスト等の未整備等の理由から、教育内容・教育体制がともに不十分であるといえる。

高度獣医療ならびに感染症や食品衛生を含む公衆衛生分野などの充実を可能とし、獣医学教育に対する国際的、社会的要請に応えるためには、現状の教育体制では不十分である。

こうした現状分析や内外の動向を踏まえ、岩手大学と東京農工大学は両大学の緊密な教育連携のもとで、スケールメリットを生かし、優れた人材育成を養成する体制を構築し、国際水準にある獣医学教育を行うことが可能であるとの結論に達した。その方策として、現行の両大学における獣医学教育の詳細な内容精査を行い、両大学の特色ある教育資源を効果的に活用し、国際的水準を満たす獣医学教育の充実を図るため、共同教育課程を設置することを構想し、平成22年7月より具体的な検討を開始してきた。

2. 教育上の理念および養成する人材像

獣医師法（昭和二十四年法律第八十六号）第1条（獣医師の任務）に、「獣医師は、飼育動物に関する診療及び保健衛生の指導その他の獣医事を司ることによって、動物に関する保健衛生の向上及び畜産業の発達を図り、あわせて公衆衛生の向上に寄与するものとする。」が挙げられている。

獣医師の職務遂行上、最低限共通的に求められる基礎的な知識・技能の育成に加え、専門分野・職域別に求められる実践的な知識・技能の育成を高学年対象に行う専修コースの設定等を促進する必要がある。そのために、両大学に設置される共同獣医学教育課程においては、以下の教育を実践し、社会に貢献する獣医師の育成に邁進し、日本や世界における喫緊の共通課題を解決させる人材を養成する。

- ①獣医師としての任務を遂行するため、高度な専門的知識のみならず、論理性や倫理性を兼ね備えた高い行動規範を持つ人材を育成する。
- ②動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する実践力を兼ね備えた、基礎的な知識・技能を持つ人材を育成する。
- ③生命現象の解明を基盤とする生命科学や応用開発等において、獣医学を基礎として問題解決能力を持つ人材を育成する。
- ④地球規模での感染症や畜産物の安全確保などに対して貢献する、知識・技能を持つ人材を育成する。

3. 共同獣医学教育課程の特色

岩手大学は、日本有数の畜産物生産基地である東北に位置し、高度産業動物獣医療の実践という特色を持つ。一方、東京農工大学は首都圏に位置し、伴侶動物の高度獣医療の実践という特色を持つ。このことは附属動物病院における動物の診療件数に明確に表されており、岩手大学においては伴侶動物 2,300 件、産業動物 1,020 件であるのに対し、東京農工大学では伴侶動物 21,800 件、産業動物の診療件数は 15 件となっている。さらに、岩手大学は、「動物医学食品安全教育研究センター」を設置し、3つの使命、①. 動物性食品に関する学際的・横断的な研究拠点形成、②. 動物・食品分野横断的な動物性食品に関する卒業教育・学部教育の提供、③. 地域密着型・問題解決型の動物性食品に関する研究推進を果たすべく活動している。東京農工大学には、伴侶動物の高度先端医療を実施・教育するための設備として「動物医療センター」が設けられ、先進獣医療機器を備えて、動物に対して最善の治療を提供するとともに、学部学生、大学院生ならびに研修医の臨床教育、近隣/近県の伴侶動物臨床獣医師のための卒業教育の場として大きな役割を果たしている。更に東京農工大学では、公衆衛生部門においては口蹄疫等に関する教育・研究施設の設置を計画している。

こうした岩手大学と東京農工大学の獣医学科が有する特色と、両大学における他学科の教育資源の協力を仰ぎながら、モデル・コア・カリキュラムに基づく教育を基盤として、これまで一大学では成しえなかった国際的教育水準を満たす獣医学教育を編成し実践していく。具体的には、以下の構想を実現していく。

- ①獣医学教育の国際的水準を達成する教育体制を構築する。
- ②獣医学教育で不十分とされる先端的伴侶動物臨床教育、高度獣医療を可能とする産業動物臨床教育、感染症や食の安全に関する公衆衛生教育を充実させる。
- ③生命科学を基盤とする基礎獣医学教育を充実させる。
- ④講義関連は、遠隔講義システムを活用するとともに、教員を移動させて講義することにより、教育効果の向上を図る。また、導入科目においては、学生が移動して講義を受けることにより、共同教育課程としての一体感を醸成する。実習関連では適切なフィールドを提供できる大学へ教員・学生を移動させることにより、有効な教育を実施する。
- ⑤研究、臨床、公衆衛生分野などへのバランスのとれた人材育成をはかる。

4. 教育組織の名称および学位の名称

(1) 共同教育課程の名称

岩手大学農学部・東京農工大学農学部共同獣医学課程
岩手大学および東京農工大学における名称：共同獣医学課程

(2) 授与する学位の名称

学士（獣医学）
学位記は、両大学長の連名によるものとする。

(3) 学生定員

1 学年 65 名（岩手大学 30 名，東京農工大学 35 名）とし，6 学年の総学生定員数は 390 名とする。

5. 入学者選抜のアドミッションポリシー

獣医師は，動物と人類の健康と福祉に貢献するという理念に基づき，本共同獣医学教育課程は，高度獣医療の提供，人類の健康と食の安全，生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を養成することを設置基盤としている。そのために，本共同獣医学教育課程では，次の学生を国内外から求める。

1. 獣医師としての目標を持ち，獣医学の発展に貢献しようとする意欲を持つ者。
2. 自然や生命現象に関心を持ち，それを探求しようとする意欲を持つ者。
3. 獣医師として，国際的な交流・協力を推進し，世界に学び世界に貢献しようとする意欲を持つ者。
4. 常に自己を啓発し，実行力に優れ，社会で貢献しようとする意欲を持つ者。
5. 課題を探求し，問題を解決する意欲を持つ者。

6. 共同教育課程編成の考え方と特色

(1) 編成方針

教育課程は，①一般教養科目，②獣医学導入教育基礎科目，③基礎獣医学教育科目，④応用獣医学教育科目，⑤臨床獣医学教育科目に大別して実施し，特に臨床獣医学教育科目を充実する。開設科目については，選択，選択必修，必修とし，卒業に必要な取得単位数は両大学ともに同じとする。

(2) カリキュラム

①一般教養科目

獣医師には，地球上全ての動物生命の健康と繁栄に責任を負う自然科学としての獣医学を背景とし，論理性および倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められる。一般教養関連科目は，その基盤となる基礎的知識の習得を求め，多様な領域に対する学問的関心を喚起することで幅広く深い総合的な判断力を培い，獣医師として豊かな人間性を涵養することを目的とする。共同獣医学教育課程における一般教養関連科目は，「大学導入科目群」，「外国語科目群」，「スポーツ健康科目群」，「人文社会科学科目群」，「持続的な社会と環境科目群」，「理数系基礎科目群」によって構成され，獣医学を学ぶに必要な基礎的知識を習得する。

②獣医学教育専門科目

共同教育課程の理念を醸成するため，低学年次における獣医学概論などの獣医学導入教育基礎科目を必修とする。両大学で実施している現在のカリキュラムを見直し，全国大学獣医学関係代表者協議会を中心に策定中の獣医学教育モデル・コア・カリキュラムを基本として教育すると同時に，両大学の特色ある教育資源を有効に活用して国際的な水準にある教育カリキュラムを構築する。また，高学年次には先端生命科学（基礎，応用）および高度獣医療（臨床）の 2 コースを設置し，卒業研究の指導教員として，学生が両大学の教員を選択できるものとする。

7. 共同獣医学教育課程のタイムテーブル

(1) 開設予定

平成24年度の開設を目途に、検討を継続する。

(2) 入試制度

1. 個別入試, 推薦入試, 学士編入学試験については, 各大学において実施する。